

第2回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日時 平成27年7月1日(水) 15:00～16:55

2 場所 鳥取市役所本庁舎 4階第2会議室

3 出席者

(1) 委員 佐藤委員、上田委員、下澤委員、福島委員、佐々木委員、高濱委員、有田委員、景下委員、平尾委員(順不同) 委員出席者9名

(2) 鳥取市 馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、西尾協働推進課係長、岡田協働推進課主任、田中協働推進課主事

(3) 傍聴者 1名

4 議事

(1) 審査事項

市民まちづくり提案事業協働事業部門(行政提案型事業)交付申請団体の審査について

《2団体の申請書類及び公開プレゼンテーションによる審査》

【申請団体】

- 1 リノベーションまちづくりお昼間企画プロジェクト
- 2 用瀬町エコツーリズム連絡会

(委員長)

審査に入る前に、事務局から行政提案型事業を設けられた狙いと目的を説明していただいた。具体的に審査をされるにあたって、こういう観点で審査に臨んでいただきたいということで、5つの項目がある。事務局から説明があったが、何かお尋ねや確認等あればご発言いただきたいと思う。

(委員)

審査の内容の話ではないが、テーマに沿った事業を募集されて、その事業をしていただける団体の方が手を挙げるという形になっているが、これは単年度だけの話か。

(事務局)

単年度の事業である。近年この事業の募集を行っているが、単年度で完結していただくということになっている。

(委員)

事業というのは、やっぱり一つは持続性が必要になってくると思う。来年はどうする、再来

年はどうする、ということでやっていかないと、ただ単年度で、はい、やりましたで終わっていて、要は「PDCA」の「PDC」まではあるが、「A」がないという事業のやり方になっているという感じはした。だから、発表される人を永续性はあるのかという観点で見たときに、一年しかやらないのでということで点数が低くなるという心配があったのでお尋ねしたものである。

(委員長)

当初の支援措置とした理由があると思うので、その辺を答えていただけるか。

(委員)

看板を作ったとしても、何年か経てばボロボロになる。その補修も何年か先には出てくるし、そういう場合はどうするのかと思う。

(委員)

この補助事業は、一年限りだから事業の継続性という点でそもそも矛盾してないかということか。たぶん市で考えているのは、単発で終わるような事業ではなくて、ある程度継続性のある事業にのみ、補助金を出そうということなのだろう。

(委員長)

ただいまのお話は、大変もったいなことだと思う。おっしゃるように地域の課題解決のために、任意団体の方々、あるいはNPO法人の方々等が自主的に対応し、しかも継続していかなければ効果が出ない。市の社会福祉法人に設けられている委員会での審査では、立ち上がって数年経った方の活動を支援しようというものである。今おっしゃるように、そういった問題の解決の効果を求めるがゆえに、立ち上げて数年の間は支援していこうという措置のように思う。

今回、私たちが扱っているこの行政提案型の審査については、公益な課題は費用もかかってなかなか大変なので、むしろ、立ち上げも、公益的な課題に取り組んで問題解決していくような地域の皆さんの組織、グループを応援しようということで、補助金額も、通常のものに比べて、高額な上限40万円となっている。今回は、単年度の支援措置であるがゆえに、申請団体の人も単年度が終わっても維持するという考えでないといけないと思うが、その辺は後ほどのプレゼンテーションで、よくよくお尋ねをしていただくということによろしいか。

(事務局)

事務局で補足説明をさせていただくと、去年、殿ダムでの音楽祭等にこの事業で40万円補助している。殿ダム音楽祭の関係は、今年は市で予算をつけて実施することになっていると思う。これは、行政提案型ということで、モデル的にやってみて、継続的に必要だということがあれば、また市で直接補助していくというような制度に結び付けていくこともやっているの、行政で提案したことをやってみてもらい、それを検証し、また必要なら今度は担当課が予算をつけて繋げていくというような方向になっていくと思うので、ご理解をお願いしたい。

(2) 協議事項

先進的活動団体との勉強会について

《事務局説明》

(委員長)

ただ今事務局から、過去当委員会の勉強会で、24年度、25年度、26年度、それぞれ勉強会でやったことの説明があったが、27年度の勉強会では「ふるさと元気塾」についてということで紹介があった。私もよく承知していないが、市が地域活性化のリーダー育成を図ろうということで、23年度から取り組まれている施策のように伺っている。

この提案は、委員会として全員の参加ということか、それとも、地域の特産品の開発やコミュニティの強化、地域間交流の3つのテーマがあるが、それぞれ希望するテーマごとに参加するということか。そのあたりどういう計画か。

(事務局)

「鳥取ふるさと元気塾」に参加してくださいということではなくて、開講式があるというのは、お知らせになる。できるならば、次回、元気塾の代表の藤原さんという方をこの委員会においていただき、意見交換なりという形を取らせていただけたらばと思っている。

(委員)

藤原さんの専門は何か。

(事務局)

もともとは、デザインである。

(委員長)

講師の方がたくさんおられるが、この委員会にまずはおいでいただき、活動の状況やリーダー育成等の効果、あるいは課題等について意見交換するということか。

(事務局)

平成23年度からやっていて、それなりの実績も出てきているので、そういうところも話をしていただけるのではないかと思います。リーダー不足という話は地域からよく聞く話なので、そういった点で取り組みを進めているということもある。そういった観点でもお話を聞けるのではないかと、今回提案させていただきました。

(委員長)

そうそうたる講師の方がいらっしゃるようだが、この勉強会では、この中から何名かの方にお越しいただくということなのか、代表の藤原さんに来ていただくということか。

(事務局)

何名かに来ていただけるといいが、全体を総括されているという意味からも、藤原さんをお願いできればと考えている。

視察等ということも考えたが、予算的なこともあり、限られた選択肢しかないのは大変申し訳ない。これに限ったわけではないので、こういう形での勉強もしたいというようなご意見があれば、調整もさせていただき、改めて相談させていただきたいと思うが、如何か。

(委員長)

時期は、いつ頃になりそうか。

(事務局)

もともと年間計画は、7月から8月ごろに第3回をと想定したが、8月下旬ぐらいから9月あたりで第3回を予定させていただきたいと思っている。

(事務局)

講師については事務局に一任していただけるということでよろしいか。

(事務局)

改めてご案内させていただきたいと思うが、第3回は、そういった勉強会と併せて、「参画と協働のまちづくりフォーラム」についても、検討を始めていきたいと思っている。いろいろなご提案やご意見をいただきながら調整していきたいと思っているので、議事録と合わせて、次回についてご意見もいただければと思っている。

(委員長)

まず、委員会としての勉強会について、今年度は事務局から提案のあった「ふるさと元気塾」との勉強会ということで、計画を進めてよろしいか。時期は、8月から9月の初めごろということだが、講師の方との調整もあるので、そのあたりの日程調整は事務局でよろしくお願いしたいと思う。併せて、最終的な講師の選定等は、事務局に一任ということでご了承をお願いしたい。

<市民まちづくり提案事業助成金協働事業部門(行政提案型事業)交付申請団体の審査結果について>

《事務局結果報告・委員コメント》

5 閉会 16:55